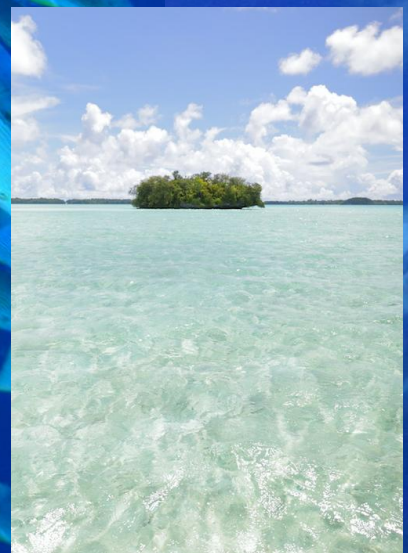
イレズミフエダイとカンムリブダイ 産卵 SP ダイブクルーズ

2025 年 10 月末から成田－コロール（パラオ）の直行便が就航することが決まり注目度急上昇のパラオ。
日本の南約 3,000kn、太平洋西部の赤道に程近い海に浮かぶパラオの島々は、ダイバーにとっては夢のような海中楽園だ。
あらゆる魚たちが子孫を残すために行われる繁殖行動も大切な見どころのひとつ。
長年の経験と実績から分析し運航をしているダイブクルーズ船「龍馬Ⅰ」ではシーズンごとにスペシャルなトリップを開催。



写真／秋野大（デイドリームパラオ、龍馬Ⅰ代表）
構成・文・写真（YG）／後藤ゆかり

ペリリュー島南端でイレズミフエダイの大集団！
群れを成す理由がガイド陣の緻密な観察から判明

イレズミフエダイを知っているだろうか？　ブルーと黄色のラインがキレイな魚なんだけど、水中ではパット見、地味なせいか、単体では意外と人気のない魚だ。私は好きだけど。
尾の近くにある黒い斑点が入れ墨みたいだからその名が付いたのだろうか。名前にも華やかさはない。

が、パラオでは春と秋にこのイレズミフエダイが何百、何千、いや何万と集まる時があるという。およそ 20 年前のこと。普段は 200～300ｍの深場に生息しているが、ダイバーが見られる水深 20ｍ付近まで上がってくることが発見される。場所はパラオ諸島のほぼ南端にあるペリリュー島の「イエローウォール」と、もっと主島コロールに近い「シャークシティ」。パラオのガイド陣は色めき立つ。観察を続けていた《デイドリームパラオ》の秋野大さんが、「シャークシティ」でも群れはすごいが、ペリリュー島はもっと群れのサイズが大きいことに気づいた。

しかも集まるには何か理由があるに違いない。秋野さんは 2005 年にペリリュー島に同店の「ペリリューステーション」を開設したのを機に、観察に力を入れた。「イエローウォール」では 45 分間のダイビング中ずっとイレズ三フエダイが目の前を北から南へ、つまり「ペリリューエクスプレス」方面へ移動していくことに気づく。おそらく「ペリリューエクスプレス」と「ペリリューコーナー」付近でイレズミフエダイたちが産卵をしているのではないかと推測を立てた。ペリリューステーションを拠点に観察を続けるも、なかなか産卵シーンを目撃できなかったのだが、2010 年、ダイブクルーズ船「龍馬 I」を就航させると、ペリリュー島での観察が一日中可能となる。程なくして 2011 年、イレズミフエダイの集団が産卵しているところを発見！　予想はしていたものの、世紀の大発見だった。その後、何年かかけて潮回りや月齢、産卵時間を記録していき、産卵時期を推測。「龍馬 I」では、10 年ほど前からイレズミフエダイの産卵を狙うクルーズを企画できるようになった。当たり前に今は開催されているけれど、素晴らしい発見と観察のおかげだ。

それにしても、SNS で秋野さんやゲストたちがアップするイレズミフエダイの産卵映像や画像を見るたびに筆者はとにかく羨ましくて仕方なかった。大好きなパラオの海でそんなことが起こっているなんて！！

３～５月、ペリリュー島の青い海の中で壁のように大きな群れを作るイレズミフエダイ。最初は小さな群れが日に日に多くなっていき、最終的には数万、十数万尾もの群れになるという。

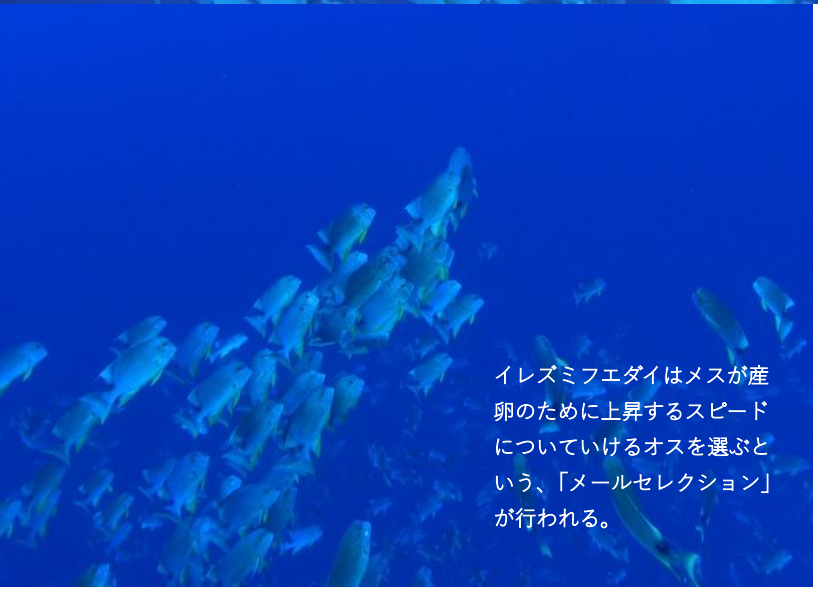
イレズミフエダイ

Symphorichthys spilurus

フエダイ科イレズミフエダイ属の一属一種の魚。体に青色と黄色の縦縞が無数にあり、尾の根元に大きな黒色斑、目とその後ろを橙色の２筋の横縞が通っているのが特徴。老成すると体の縦縞が薄くなっていき、色鮮やかさは失われる。背ビレ３本前後が長く伸び、たなびくように泳いでいる。体長 50～60cm。沖縄島以南の西太平洋、オーストラリア西岸のサンゴ礁域に生息。普段は水深 50～60ｍ付近に単独で生息、産卵時に浅瀬に上がって集団を形成するといわれている。

ついに“その時”が訪れた！
あっちこっちでイレズミフエダイが放精放卵

黒っぽく婚姻色になったオスが交じるイレズミフエダイの大集団



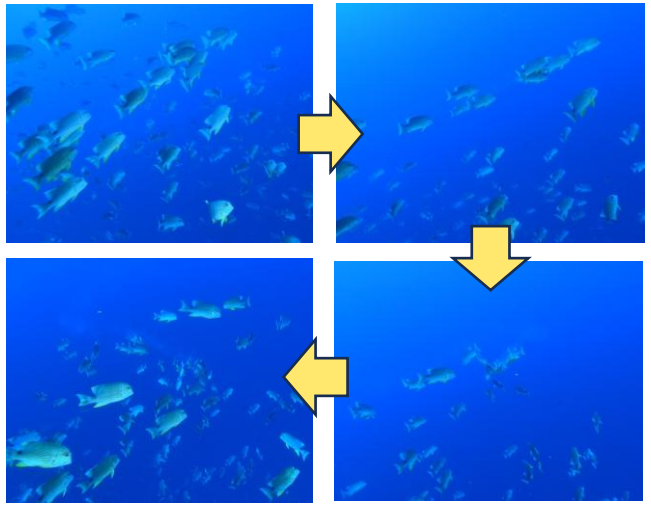
イレズミフエダイはメスが産卵のために上昇するスピードについていけるオスを選ぶという、「メールセレクション」が行われる。

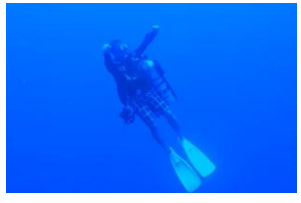
今回参加した「龍馬Ⅰ」のダイブクルーズ、イレズミフエダイの産卵はペリリュー島で狙うことになっていた。筆者は過去に「龍馬Ⅰ」で潜った時に、ペリリュー島「イエローウォール」でイレズミフエダイの大群に遭遇していたので、今回もそこなのだろうと思ったら違った。集まるのは「イエローウォール」でも、産卵するのは「ペリリューエクスプレス」「ペリリューコーナー」なのだ。長年イレズミフエダイの行動を観察していた秋野さんが推測したとおりだったのだ。とはいえ、激流になることでも知られる２スポット。少し不安。

クルーズでは４月の半月から新月に向かうある日、２日間の予定でペリリュー島を潜ることになっていた。初日の早朝、「ペリリューエクスプレス」に入ると、流れはほとんどなく緩やか。心配は杞憂に終わった。棚上を泳ぎながら探すこと約 15 分。青い中層にイレズミフエダイの群れがおぼろげに見えてきた…と思ったら。近づいてきた。まだ産卵態勢には入っていない模様。だが、見る見るうちに群れは大きくなっていく。NDL がギリギリになるまで待っていたが、まだ産卵しそうにない。エグジットする。朝食を急いで食べて、１時間半後にまた潜った。今度はすぐにイレズミフエダイの大群が目の前にいた。けれど、やっぱり産卵態勢には入っていない。事前にブリーフィングで、イレズミフエダイのオスの体色が黒っぽくなるのは婚姻色であると教わっていたので、素人目にもわかるのだ。NDL が終わりに近づいてきた頃、ポツポツと婚姻色のオスが群れに混ざり始めた。くぅ～！　私たちはいったんエグジットして、１時間後、３本目に挑戦することとなった。

「時間がもったいないから」と群れがいる辺りをボートから探し、ほぼ真上でエントリー。心配する流れは１、２本目よりはあるけれど、ペリリュー独特の速さはなく、緩やかだ。私たちダイバーは群れを眺めるためにリーフの棚上にカレントフックをかけながら待機する。大きな群れに婚姻色のオスがバラバラにいるので、左右見渡しながら、産卵し始めるのを待った。奥のほうで産卵が始まったのでは？と思ったら、あっちでもこっちでも数尾から 10 尾ぐらいのグループが急上昇を始める。あっと思った瞬間、青い海中に白いものが放たれた。放精放卵だ。１カ所だけでなく、右でも左でも、群れの奥の沖のほうでも。イレズミフエダイの大産卵ショーだ！　見とれているうちにあっという間に 30 分以上過ぎていた。その間、私たちは棚を離れて群れの近く、中層を泳いでいた。秋野さんがメンバーに安全停止の合図をする。と同時に、ガッツポーズ！　この日に見られるとわかっていても、そこは自然のもの。予想が当たるとは限らないわけで、長年のデータの蓄積や予想が当たったうれしさと安堵感が爆発したのだろう。そのガッツポーズに私はイレズミフエダイ大産卵観察の成功の裏にある、地道な努力や推測力の凄さをひしひしと味わった。もちろん、イレズミフエダイの大産卵は凄すぎて、脳裏からいまだに離れない。

イレズミフエダイ産卵シーンを連写！





今回も見れた！
ガッツポーズ！

カンムリブダイが何千尾と集まってくる海

その数、数千ともいわれるものの、壁のような群れになるわけではないのか、個体と個体の隙間はあまり密ではないようだ。
でも目の前に立ちはだかる群れはやっぱり迫力大。
しかしリーフ上で見る巨大なカンムリブダイは集まってきていない。
その理由はぜひ秋野さんに聞いてみて♪

パラオの「ブルーコーナー」や「ニュードロップオフ」など人気スポットのリーフ上でたまにお目にかかれるカンムリブダイ。早朝や夕方などは 10 尾ぐらいで群れていることもあるけれど、基本的には大きな個体が単体で行動している。体長は大きなものでは 1.2m になる、ブダイの仲間としては最大級。冠のような頭部の盛り上がりが特徴。

2009 年にパラオの他店が「ウーロンチャネル」のすぐ南側のリーフ沖に「グラスランド」と呼ばれる新スポットが誕生させた。同年 10 月には 500 尾以上のカンムリブダイが早朝集まって産卵することが発表される。2010 年に誕生した「龍馬Ⅰ」は朝から晩まで潜れる機動力の良さを生かし、「グラスランド」で独自に調査を開始する。集まってくるカンムリブダイは 500 どころか 1000 尾を超え、数千尾ともいわれるようになる。

「グラスランド」には日中潜ってマンタやヒョウモントメエイ（オルネートイーグルレイ）など大物から砂地のアキアナゴ群なども見て「いい思い」をしていた筆者。早朝のカンムリブダイは実は未経験だった。今回の「龍馬Ⅰ」の目的のひとつ、カンムリブダイの産卵にかける想いもひとしおだ。

ベリリュー島のイレズミフエダイ産卵を見た翌日、新月の 3 日前。夜明けとともに「グラスランド」に到着した。この日がカンムリブダイ産卵の狙い目と知られているのだろう、他のクルーズ船や町のダイビングサービスのボートが気づけば 10 隻以上いた。

カンムリブダイにも婚姻色があり、産卵時期になるとオスは顔が白くなる。拡大しないと見分けがつかないが、集団の真ん中に顔は白くなっていないメスがいて、メスが放卵すると周囲のオスが一斉に放精するのだ。

早朝、カンムリブダイの産卵待ちをしていたら、ボートキャプテンが急に沖に向かい出した。ハシナガイルカが 100 頭ぐらいいたのだ。なんという目のよさ！　走るボートの船首にイルカたちが集まってきて波乗りを楽しんでくれた。

カンムリブダイ

Bolbometopon muricatum

ブダイ科、カンムリブダイ属、一属一種。
英名 Green Bumphead Parrotfish だが、エリアによっては Buffalowfish とも。最大体長 1.2ｍで体高が高く、頭部に冠のようなコブを持つ。中西部太平洋、インド洋、紅海に分布。サンゴ礁域に生息し、サンゴや藻類などを食す。

打ち上げ花火のような大産卵ショー

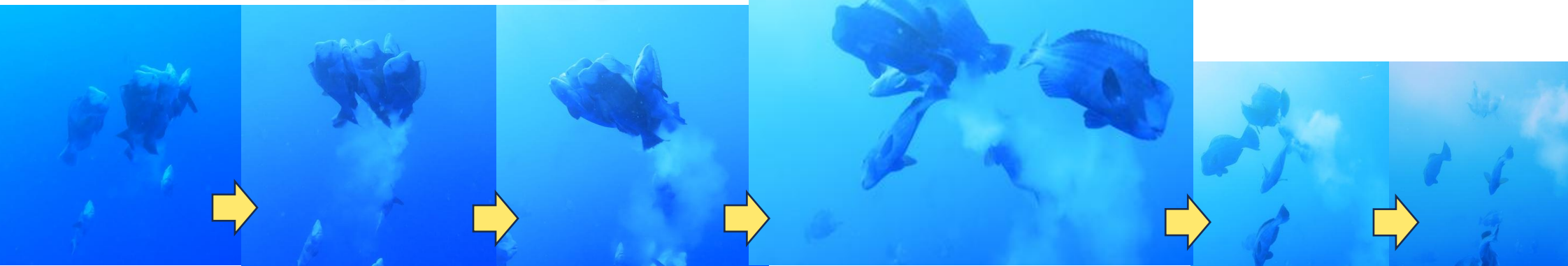
群れの中からメスを持ち上げるようにしてオスが数尾〜10尾ぐらい上昇していき産卵行動。
メスがその気にならず一目散に逃げてしまい、オスたちが置き去りになることもあるという。

日の出ともに潜ろうとしたものの、様子をチェックしに行ったガイドさんがカンムリブダイの産卵には早いと判断。船上で待つこととなった。30分ぐらい待ったところで、まだ他のダイビングボートも潜っていなかったのだが、「ちょっと早いかもしれないけど、行きましょう」と秋野さん。潜降する。青い海に、カンムリブダイが1尾また1尾と泳いでいく。どうやら集合場所に向かっているようだ。リーフの先にカンムリブダイたちが数十尾群れている。後から後から他のカンムリブダイも集まってきている。一体全体どこからこんなに集まってきたんだろう？1000尾という噂ほどではないけれど数百尾は集まっただろうか。いきなり、あっちこっちで、イレズミフエダイの時のようにカンムリブダイたちが数尾〜10尾ぐらいの群れで急上昇していく。いやもうホント、あっちで放精放卵したかと思うとこっちでまた産卵、すると今度はまた別のところで……と、私たちダイバーがいるのもおかまいなく、放精放卵が行われる。産卵が始まってからたぶん20分以上ずっとそんなシーンを見ていただろうか。ほかの船のダイバーも後から後から集まって来ていて、放精放卵で海は真っ白になるわ、ダイバーは多いわで、空いている場所を探して移動したりしたけれど、ずっとカンムリブダイの大産卵ショーを観察することができた。

とても希少で貴重な生態シーンを、こんなに手軽に楽しませてくれるパラオの海はやっぱりスゴイ。そしてパラオのガイド陣の開発の苦労を思うと、ダイビングって奥が深いなと改めて感じたのだった。

ちなみに、翌朝も出発時間を少し遅らせて出発。産卵はこの日も始まっていなかったのだが、待っている間に沖で100頭はいただろうか、ハシナガイルカのジャンャンプをクルーが発見。ボートで近づいていって、ドルフィンウオッチングまで楽しんだのだった。もちろんその日もカンムリブダイの大産卵観察に成功。「龍馬Ⅰ」、さすがだ。

カンムリブダイの産卵シーンを連写！



パラオの人気スポットを潜れる贅沢

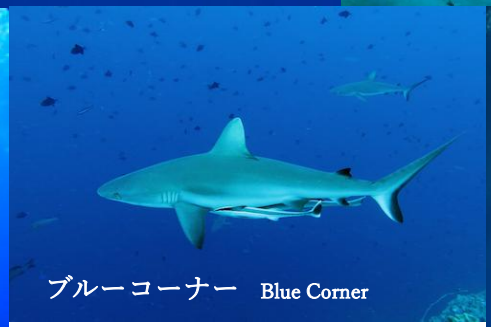
ダイブクルーズの２大目的、イレズミフエダイとカンムリブダイを狙うといっても、ずっと狙い続けるわけではない。会える潮の時間もあるし、イレズミフエダイを狙うペリリュー島の南端はカレントが速く激しくなることで知られる。ウォーミングアップのダイビングも必要。そしてそれぞれ予定よりも早く目的達成となったので、パラオの他の旬のスポットを潜ることができたのだ。

ジャーマンチャネル　German Channel
プランクトンが集まるある日の夕方、マンタがトレイン状に登場。大好物のプランクトンを捕食するのだ。

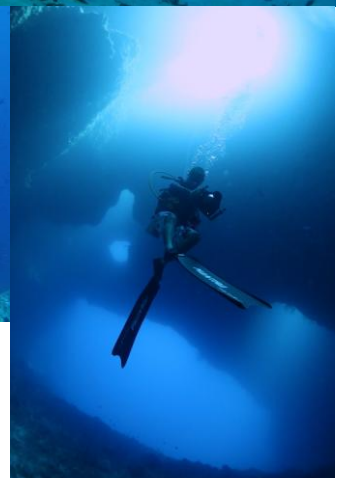
ジャーマンチャネル　German Channel
水深15m前後のクリーニングステーションにやってくるマンタ。

ジャーマンチャネル　German Channel
プランクトンが集まる時はマンタだけでなく、他の魚……タカサゴ、クマササハナムロ、ウメイロモドキ、ユメウメイロ、ミナミイスズミなどなどが密に群れる。

ブルーコーナー　Blue Corner
最強スポットといわれサメ、ナポレオン、ウミガメのほか、銀鱗系の回遊魚、ギンガメアジ、イソマグロ、ロウニンアジ、クロヒラアジ、メアジなどが群れで見られるが、何と言ってもブラックフィンバラクーダにアドレナリンもフツフツ！



ブルーコーナー　Blue Corner
グレイリーフシャーク（和名オグロメジロザメ）はリーフエッジ周辺をウロウロ。迫力たっぷり。



ウォーミングアップでマンタ！の贅沢

今回のスペシャルクルーズの場合、参加者のスキルレベルは「龍馬Ｉ」が目安にしているダイビングスキル「レベルG」。ドリフト、フリー潜降、中性浮力が高レベルでできることに加え、ナイトロックス利用が必須、ブランク１年以内で経験本数は150本以上（体力年齢によっては300本以上）というレベル。そのせいか初日からパラオの３大ビッグスポットともいわれる「ジャーマンチャネル」「ニュードロップオフ」「ブルーコーナー」だ。筆者のようなパラオ好きにはたまらない。

実際、「ジャーマン」ではクリーニングステーションでマンタに遭遇、その後、巨大なオルネイトイーグルレイが出て、参加者全員、思いがけない出会いに大喜び。「ニュー」と「コーナー」では、ダイナミックなドロップオフの壁やリーフエッジでグレイリーフシャークや銀鱗の回遊魚群、沖でブラックフィンバラクーダのトルネードなど、パラオに行ったらやっぱり見ずにはいられない大物たちとランデブー。ナポレオンやウミガメも多数。

さらに他の日には「コーナー」の隣の「ブルーホール」で映画『インディジョーンズ』を彷彿とさせる“第５の穴”探検に挑戦するなど、わくわくドキドキのダイビングも。毎回、毎日、幸せなダイビングを味わうことができた。

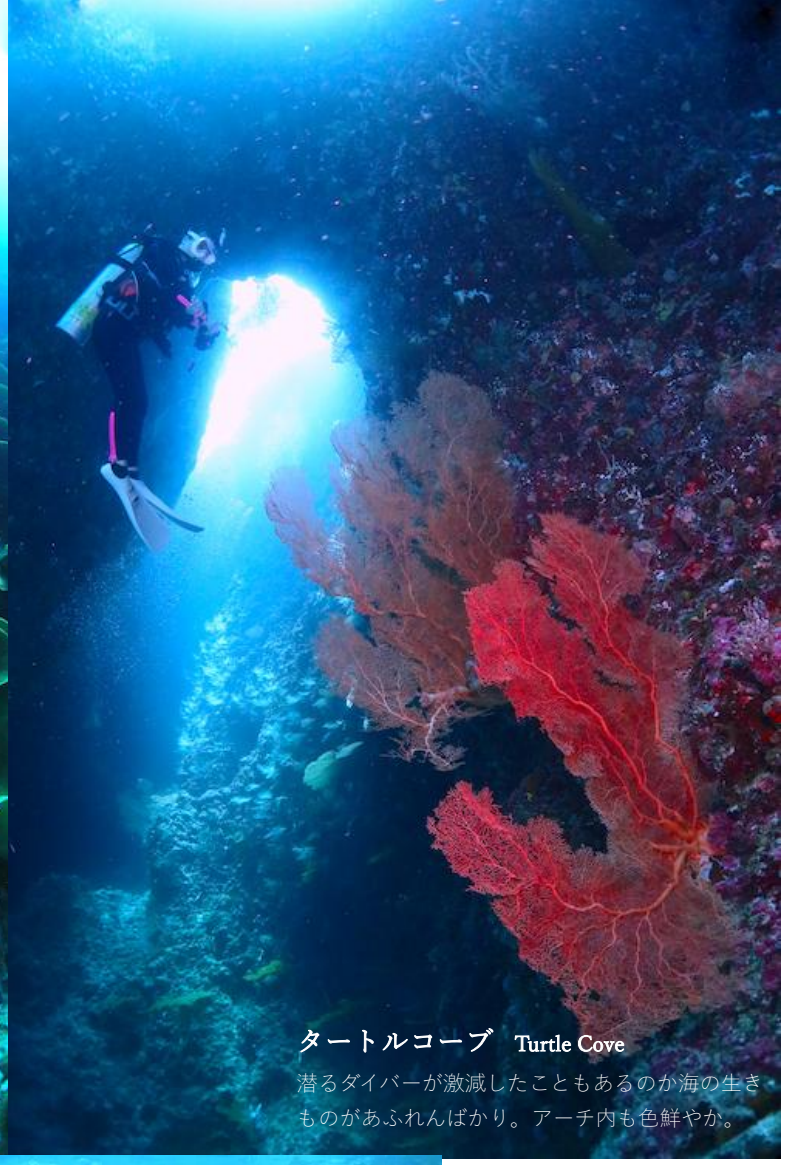
クルーズ５日目、夕方の潮でマンタの捕食が狙える！と再び「ジャーマンチャネル」へ。その前のダイビングがおもしろすぎてエントリーするのがちょっと遅くなってしまったのだが、水面を捕食しながらマンタが次々と現れるシーンにも会えた。

ブルーホール　Blue Hole

天井にあいた４つの穴から射し込む光、ドロップオフにつながる横穴に広がる神秘のブルーが最高。実はほかにも奥行きのある穴があるとは……。

ウーロンチャネル　Ulong Channel

真っ白な砂地が延びるチャネル中ほどにある英物、巨大なキャベツコーラルの群生。



タートルコーブ　Turtle Cove

潜るダイバーが激減したこともあるのか海の生きものがあふれんばかり。アーチ内も色鮮やか。

左/シアスコーナー

Sias Corner

潮当たりがいい所には、大物だけじゃなくバートレットアンティアスのようなハナダイの仲間が大乱舞。

右/ウーロンチャネル

Ulong Channel

チャネルの奥の浅瀬はスキー場のゲレンデのような白砂の世界と元気なサンゴ礁が大群生。

「グラスランド」周辺もカンムリブダイ以外にも刺さるスポット多数

早朝のカンムリブダイ産卵を狙った「グラスランド」は、パラオ南西のバリアリーフ沿いにそびえるウーロン島の沖に位置している。リーフの内外を「ウーロンチャネル」という水道が結んでいて、ここもまた絶好のダイビングスポットとして、特に現地ガイドに人気。何が出るかわからない意外性あふれる海中シーンが期待できるからだとか。「ウーロンチャネル」の北には「シャークシティ」「シアストンネル」「シアスコーナー」とこれまた玄人人気のスポットが並ぶ。

今回の「龍馬Ⅰ」クルーズではカンムリブダイの産卵を見た後に、「グラスランド」を潜ったり「ウーロンチャネル」「シアスコーナー」を潜ったりすることができた。

「グラスランド」ではスポット名の由来となった、草原のようなスパゲッティガーデンイールの群生、青い海に溶け込むようなオオメカマスの群れにハダカハオコゼと大中小の生きものを観察。

「ウーロンチャネル」ではサメ、魚群、サンゴを満喫した後、上げ潮のカレントに乗って高速ドリフトを楽しんだり。浅瀬の真っ白な砂地とブルーの海のコントラストに酔いしれたり。最高でお気に入りなのだが、光を浴びる元気なサンゴにもくぎ付けになった。

ペリリュー島狙いだから潜りたい「タートルコーブ」

今回はペリリュー島の海域でイレズミフエダイの産卵を狙ったこともあり、コロール州のダイビング（ロックアイランド）パーミット５日間 US$50 のほかに、ペリリュー州ダイビングパーミット５日間 US$60 が必要。せっかくならと、ペリリュー州の「タートルコーブ」にも行こうということになった。筆者が大好きなスポットだがパーミットの関係で久しく潜っておらず、小躍りせずにいられない。実際潜ってみると、特徴のアーチもリーフ内外の魚影の濃さも、「ブルーホール」と「ブルーコーナー」を一緒に潜ったような贅沢感とでもいうのだろうか。アーチの規模は全然違うけれど、テンション上げ上げである。リーフの棚にはヒメフエダイがじゅうたんのように群れているところも。スゴイ海である。残念ながら、深場のモエギハゼは見つけられなかったけれど、壁沿い、中層、棚上で満足、満腹な気持ちになれた。

今回の「龍馬Ⅰ」でのダイビングでは、スーパーガイドの秋野さんが積み上げた長年のデータと経験と、そこから考えられる可能性、創造性のおかげで、少しの外れはあっても結局は当たるし、人気スポットではどこでもダイバーのゲストの皆さんが、そして筆者も大満足な、幸せの連続だった。さすがダイビング天国パラオ、ではあるが、それにもましてさすが「龍馬Ⅰ」、さすがダイブクルーズ、さすが秋野さん。「海の楽しさはガイドによる」とよくいわれるけれど、それを証明してくれるような日々だった。

パラオの海を確実に、快適に楽しむなら

龍馬Ⅰ

MV RYOMA I

寝ても覚めてもずっと海の上。ダイバーの本望と言える究極のダイビングライフがダイブクルーズといわれる。パラオの素晴らしい海を案内するためにデイトリップだけでなく、さらなる上を目指すリピーター向けに2010年、誕生したのが《デイドリームパラオ》の「龍馬Ⅰ」だ。大型カタマランで揺れが少なく、船内スペースも広い。ダイビングは別のスピードボートに乗り換えて行うから本船は限りなくドライ。2025年で15周年。常に進歩する施設と至れり尽くせりのサービスがキラリと光る。パラオという最高の海を最高のスタイルで楽しみたい方にイチオシだ。

食事＆ダイニング

メインデッキの上、オープンエアのデッキがダイニング。雨風避けもある。

通常はビュッフェ形式。日本人好みのフレーバーでいつも満腹に

早朝ダイビングの前にはシリアルやパン、淹れたてのコーヒーがラウンジに用意されるが、朝食、昼食、夕食はすべてメインデッキの上の階のダイニングデッキでいただく。見晴らす限りの海と島、気持ちいい風、明るい陽射しがゴキゲンだ。

何よりも毎食の料理が美味しいのがゲストのハートをつかんでいる。シェフはタイのホテルや人気レストランの経験がある大ベテラン、のり子さん。朝昼晩とビュッフェ形式なのだが、航海中かぶることのないメイン料理を中心に栄養バランスのとれた何品もの料理が並ぶ。お腹を空かせたダイバー向けにとんかつやチキンかつが出たり、エスニック料理も日本人好みにアレンジされていて美味。パスタや素麺など麺料理も昼または夜に毎日出てきて、下船後の体重が怖い（笑。大丈夫だったけど）。

また、夕食時には90分ほど無料でビール、ワイン、ソフトドリンクが飲めるようになっているのも魅力。料理が美味しいものだからアルコールも進むのだった。翌日のダイビングに響かないようにコントロールするのが大変！

船室（キャビン）

これまでの常識をひっくり返したようなデザインがちりばめられているのが「龍馬Ⅰ」。客室も他のダイブクルーズ船に比べてとにかく広い。超ラグジュアリーなリゾートとまではいかないものの、スタンダードルームでも快適。ダイバーに必要なコンセントやハンガー類が揃っていて、要持参なのは歯磨きセットなど日用品と日焼け対策グッズぐらいか、でも船内にいるとあまり日焼けもしないのだが。

スタンダードルーム

セミダブルベッドが2つ。仕切りは約10cmあって、必要であればカーテンで頭の部分を仕切ることも可能。同性同士の利用もあまり気にならないはず。トイレ・シャワーはないが洗面台と大きな鏡があるのがポイント。

デラックスルーム

全9室オーシャンビューのうちバス・トイレ付きのデラックスルームが3室。収納スペースも広く、カップルでも同性同士でも広々。

デラックスルーム併設のトイレ＆シャワー。共用のトイレやシャワーも清潔できれい。

ダイビング周り

本船とダイビングボート上には快適に潜るための設備が整っていて、不便さを探すほうが大変。基本的にダイビングはナイトロックスを使用するので、毎回ダイビング前に酸素濃度をチェックすることになる。それぐらいであとはクルーやガイドが何でも準備してくれる。ダイビングが終わったら、ダイブコンピューターとカメラ類をもって本船に戻ればいいだけ。シャワーを浴びるためにスーツを脱げば、あっと言う間にクルーが塩水を抜いて干しておいてくれる。しかも毎ダイブ、ボディ用とカメラ用の2種の乾いたタオルが借りられる。ダイバーとして何でもかんでもやってもらえるラクチンさに溺れそうだ。

日本からは自分のダイビング器材、スーツ、ダイブコンピューター、フロート、カレントフックは持参したいが、現地で借りることも可能。

ダイビングへはデイトリップにも利用されているスピードボートを利用する。

ダイビングス前のブリーフィングは基本的に秋野さんがめちゃくちゃていねいに行ってくれる。

本船のダイビングデッキ（メインデッキと同じフロア）にある2つの脱水機。

最終日のダイビングが終わった後、クルーが総勢でダイビング器材を洗って干してくれる。

サンデッキは船首と屋上に。晴れた日中は意外に穴場。
停泊中はお願いすればサンルーフも出してくれる。

究極のリラクゼーションプレイス

ダイビングの間は、意外と時間もあって、筆者は SNS で発信しなきゃと大きなテーブルがあるラウンジにいることが多かった。３日目ぐらいから SIM カードか何かの不具合で WiFi がつながらなくなり、パソコンや携帯から離れて畳の部屋「竹の間」で図鑑や写真集、本を読んだり、ゴロゴロしたりして、デジタルデトックス。サンデッキは日中は暑すぎたものの、４本目の後は屋上で島の大パノラマを観賞。一緒に潜った方々とジャクジーに浸かって夕景を眺めたりしながら幸せな時間を過ごすことができた。何より都会を忘れてのんびりリラックスできるのがうれしい。普段見られない素晴らしい大自然の営みを感じることができて最高のクルーズライフだった。

屋上のデッキにはジャグジーがあり
夕日を眺めながらのんびり♪　贅沢な時を過ごせる。

広々としたメインデッキには大きなテーブルがあり、ブリーフィングが行われる。ここでくつろいでいるゲストも少なくない。

畳敷きの「竹の間」はちょっとしたライブラリー。モニターがあり
写真やムービーを鑑賞することもできる。

ガイド＆クルー

楽しいダイビングもクルーズライフも「龍馬Ｉ」を安全に確実に航行させて、ゲストの世話をしてくれるクルーやガイドのおかげ。話し出したらキリがないほど、ゲストのフォローをしたり、助けてくれたり。本当にお世話になりました♡

最終日はお買い物ツアー！

ダイブクルーズ終了後、街へのお買い物ツアーに連れていってくれるサービスがあるのも魅力。最初にバベルダオブ島のアイライにできた真新しいショッピングセンターへ行って、人気のフレバーアイスを食べたり、お土産を買ったり。「耳ぬきがしやすくなる」と評判のタイガーバームもここで買える。その後は、コロール島の中心地にある《WCTC》ショッピングセンター周辺へ。その向かいにある《パラオホテル》１階の日本人経営のギフトショップ《ルー》はおもしろＴシャツが人気なのと、エアコンが聞いたカフェがあることでも人気の店だ。

アイライのショッピングセンター２階には、アイスクリームが抜群においしい《ラマレナ》がある。リゾートウエアや水着が買える店も。

龍馬Ｉの最新のスケジュール＆料金、お問い合わせ、
その他の詳細は、以下の Web サイトをご確認ください：
https://daydreampalau.com